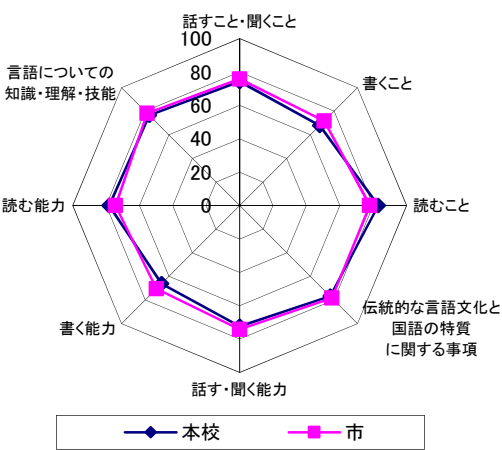


宇都宮市立富士見小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	74.3	75.9	71.7
	書くこと	67.8	71.8	73.2
	読むこと	83.1	78.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.7	78.2	79.4
観点別	話す・聞く能力	72.3	74.2	70.8
	書く能力	66.1	70.4	71.0
	読む能力	78.1	74.3	75.0
	言語についての知識・理解・技能	76.5	78.2	79.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

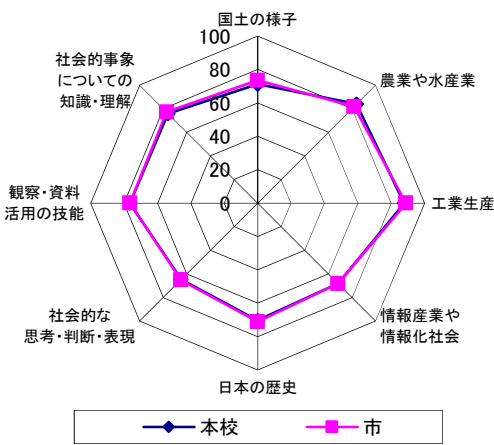
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話し手の意図を考えながら話合いの内容を聞くことができる」の平均正答率は100%で、市の正答率を2.6ポイント上回った。 ●「司会者の役割を理解して、計画的に話し合えることができる」の平均正答率は39.6%で、市の正答率を8.1ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話合いの内容を聞き取る問題では、日常生活の中で友達の発言を漠然と聞くのではなく、要点を聞き取る習慣をつけさせる。また、自分が発言する際にも、テーマに沿っているかどうかを気を付けるように指導していく。
書くこと	○「与えられた情報を読み取り、話合いの内容を踏まえて安全マップに必要な情報を書き足すことができる」の平均正答率は44.8%であり、市の正答率を1.3ポイント上回った。 ●「2段落構成で文章を書くことができる」の平均正答率は70.4%で市の正答率を9.4ポイント下回った。 ●「グラフから読み取った事実を書くことができる」の平均正答率は73.5%で市の正答率を4.8ポイント下回った。	・作文の問題では、段落分け(改行をシーマス下げて書き始める)の意識を持たせるために、小作文を日常の中に取り入れていく。また、事実と自分の意見の書き分けられるよう示された「型」に沿って書かせたり、例文を書写させたりなどして、納得させながら練習をしていく。
読むこと	○「目的や必要に応じて登場人物の心情を読み取ることができる」の平均正答率は98.3%で市の正答率を3.8ポイント上回った。 ○「文章の内容を的確に読み取ることができる」の平均正答率は81.7%で市の正答率を4.2ポイント上回った。	・物語や説明文の読み取り(選択)問題では正答率も高いので今後は、読み取ったことを自分の言葉で書く(記述する)学習をしていくことが大切と思われる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「第5学年配当漢字を読むことができる」の平均正答率は97.4%で市の正答率を1.4ポイント上回った。 ○「三字の熟語の構成を理解している」の平均正答率は86.1%で、市の正答率を4.8ポイント上回った。 ●「第5学年配当漢字を書くことができる」の平均正答率は46.1%で市の正答率を14.6ポイント下回った。 ●「文の中の主語を理解している」の平均正答率は45.2%で市の正答率を4.9ポイント下回った。	・言葉の学習の問題では、何よりも漢字を日常生活の中で使うよう促していきたい。また、辞書を引く、教科書の索引や漢字ドリルで確認するなどの習慣をつけさせたい。 ・文法を問う問題では、教材文の中での主語探しなどを授業の中でも取り入れ、主語述語についての理解を高めていく。

宇都宮市立富士見小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	71.3	73.6	76.2
	農業や水産業	83.9	81.9	77.5
	工業生産	87.8	88.9	83.4
	情報産業や情報化社会	68.3	68.2	61.0
	日本の歴史	70.3	71.1	70.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	64.6	65.1	62.1
	観察・資料活用・技能	76.4	76.5	75.2
	社会的事象についての知識・理解	75.8	77.1	76.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

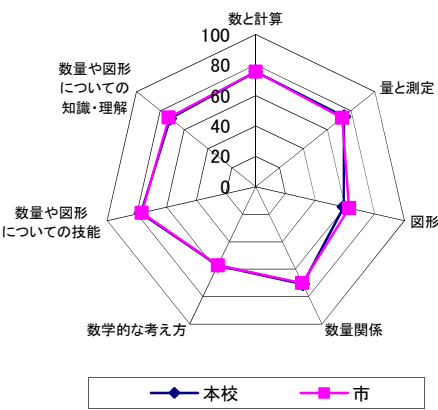
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○「日本の地球の概要についての理解をもとに、資料を読み取ることができる」の正答率は78.3%で、市の正答率とほぼ同等であった。 ●「主な国の名称と位置を理解している」の正答率は69.6%で、市の正答率を4.5ポイント下回った。 ●「自然災害について理解している」の正答率は76.5%で、市の正答率を3.1ポイント下回った。	・主な国の名称と位置については、地図を示しながら改めてよく確認し、プリント等を利用して正しく覚えられるよう指導していく。
農業や水産業	○「日本の食料生産」に関する問題の正答率は、全て市の正答率を上回った。特に、「日本の主な食料生産物の分布に関係する資料を読み取ることができる」と「稲作に従事している人々の食の安全確保のための工夫や、米の輸送・販売の費用に関する資料を読み取ることができる」の正答率は90%を超えている。	・日本の食料生産に関する問題(選択)の正答率が高いので、引き続き関心を持たせていくとともに、今後は、食料生産について、資料から読み取ったことを自分の言葉でまとめ、記述させる学習もしていく。
工業生産	●「工業生産に従事している人々による環境保全への取り組みについて、資料を読み取って考え、表現することができる」の正答率は81.7%で、市の正答率を1.8ポイント下回った。	・資料から分かったことを、示された言葉を使いながら記述する問題に繰り返し取り組ませて形式に慣れさせ、しっかりと表現できるようにさせていく。
情報産業や情報化社会	○「情報ネットワークと国民生活とのかかわりについて、資料を読み取って考えることができる」の正答率は72.2%で、市の正答率を3.1ポイント上回った。 ●「放送、新聞などの産業の役割や責任の大きさについて考えることができる」の正答率は64.3%で、市の正答率を2.9ポイント下回った。	・放送や新聞などの役割や責任の大きさについては、実際の放送や新聞を活用して、理解を深めていく。
日本の歴史	○「国学や蘭学についての理解をもとに、杉田玄白、伊能忠敬、本居宣長の働きに共通する点を考えることができる」の正答率は76.5%で、市の正答率を3ポイント上回った。 ○「廃藩置県について理解している」の正答率は80%で、市の正答率を6.8ポイント上回った。 ●「聖武天皇に関する複数の資料を読み取り、資料から共通して読み取れる内容を考えることができる」の正答率は41.7%で、市の正答率を4.8ポイント下回った。 ●「水墨画について理解している」の正答率は73.9%で、市の正答率を7.8ポイント下回った。 ●「大日本帝国憲法とドイツの憲法を比較して共通点を読み取り、大日本帝国憲法の特徴を表現することができる」の正答率は49.6%で、市の正答率を5.3ポイント下回った。	・聖武天皇や水墨画、大日本帝国憲法など、重要な人物や出来事等について復習し、改めて理解させていく。また、複数の資料を読み取り、共通して読み取れる内容を考えることができるように、様々な資料を示しながら、共通点や相違点などに気付かせ、自分の言葉で表現できるように指導していく。

宇都宮市立富士見小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.4	75.6	75.8
	量と測定	74.0	72.5	71.2
	図形	59.1	62.8	71.0
	数量関係	70.9	70.1	66.0
観点別	数学的な考え方	57.3	57.2	52.7
	数量や図形についての技能	77.4	76.7	74.1
	数量や図形についての知識・理解	71.9	73.0	77.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

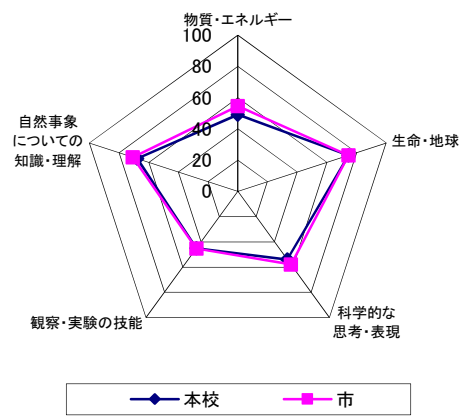
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「整数×分数(約分あり)の計算ができる」の平均正答率は94.8%で市の正答率を3.7ポイント上回った。 ○「真分数+真分数で分母同士をかける通分をする計算ができる」の平均正答率は81.9%であり市の正答率を1.8ポイント上回った。 ●「分数÷分数(約分あり)の計算ができる」の平均正答率は86.2%で、市の正答率を2.5ポイント下回った。 ●「分数の除法の文章問題を表した図を選ぶ」の平均正答率は80.2%で市の正答率を1ポイント下回った。	・分数÷分数の計算に関する問題では、わり算において除数を逆数にしてかけるところまではできても、約分することを忘れていて、これを防ぐためには、数多く練習問題に取り組ませ、約分忘れのミスを防いでいく。 ・文章問題から数直線上に数量の関係を表す問題では、まず問題文の単位に着目するよう助言していく。似た問題をいくつか解かせることで数直線への抵抗も減るものと思われる。
量と測定	○「速さと時間から道のりを求めることができる(単位換算あり)」の平均正答率は45.7%であり市の正答率を3.3ポイント上回った。 ○「台形の面積を求めることができる」の平均正答率は81.0%であり市の正答率を2.9ポイント上回った。 ○「円柱の体積を求めることができる」の平均正答率は94.8%であり市の正答率を0.7ポイント上回った。	・単位量当たりの大きさ(速さ)に関する問題では、速さ・時間・道のりの関係を把握し、問いを解くだけでなく、単位の換算でのつまづきを減らせるよう、単位を換算する問題を数多く解かせるようにする。
図形	○「合同な三角形を作図することができる」の平均正答率は94.8%であり市の正答率を2.9ポイント上回った。 ●「図に示された七角形の内角の和を求めることができる」の平均正答率は46.6%であり市の正答率を9.4ポイント下回った。 ●「円の直径から円周を求める式を選ぶことができる」の平均正答率34.5%であり市の正答率を11.8ポイント下回った。	・正多角形の問題では、三角形の内角の和は180度であることを正しく応用させるために、児童自らに図を描かせ線を引かせることで、多角形の中に含まれる三角形の存在に実感させるようにする。 ・円周の問題では、直径から円周を求める公式の確認を折に触れ行い、実際に使えるようにする。
数量関係	○「反比例の関係を表に表すことができる」の平均正答率は87.1%で市の正答率を2.8ポイント上回った。 ○「帯グラフから割合を読み取り比較量を求めることができる」の平均正答率は69.8%で市の正答率を2.8ポイント上回った。 ●「文字を使って2つの数量の関係を式に表すことができる」の平均正答率は79.3%で市の正答率を3.2ポイント下回っている。	・文字の式の問題では、文章を式にする際に、四則のうちどれを使うのか、キーワードとなる「残りは(差)」「全部で(和)」などの言葉に着目するよう助言し、問題を解く中で、文章に従って数や記号を使って立式すればよいことに気付くようにさせていく。

宇都宮市立富士見小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	49.2	54.6	57.5
	生命・地球	74.6	74.5	75.4
観点別	科学的な思考・表現	54.0	58.0	59.6
	観察・実験の技能	45.0	45.3	50.6
	自然事象についての知識・理解	67.8	70.7	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○「七輪の炭の火を強くする方法がわかる」の平均正答率は83.5%で、市の正答率を2.9ポイント上回った。 ●「電磁石のはたらきを大きくするかん電池のつなぎ方がわかる」の平均正答率は47.8%で、市の正答率を17.1ポイント下回った。 ●「ろ過について理解し、固体と液体を分けることができる」の平均正答率は42.6%で、市の正答率を15.6ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・電流の働きに関する問題については、直列つなぎと並列つなぎの違いを改めて確認し、それぞれのつなぎ方が持つ特性を理解させていく。また、実際に乾電池を扱っていく中で、体験的に知識を獲得できるよう指導していく。 ・物のとけ方に関する問題については、固体と液体を分ける方法やとけた物質を取り出す方法を改めて問い直し、それぞれの実験に必要な用具や手順を確認しながら復習を行っていく。
生命・地球	○「実験結果から、日光に当てる前の葉には、でんぷんが少なかったことがわかる」の平均正答率は71.3%で、市の正答率を11.5ポイント上回った。 ●「上弦の月が南中する時刻がわかる」の平均正答率は52.2%で、市の正答率を10.6ポイント下回った。 ●「血液から不要な物をとり除く器官を、じん臓とよぶことがわかる」の平均正答率は40.9%で、市の正答率を7.6ポイント下回った。	・月と太陽に関する問題については、月の左右のどちら側に光が当たっているのかを考えさせ、どのような条件で上弦の月が確認できるのかを復習していく。また、校庭で月の動きの観察を定期的に行い、規則性に気付かせていく。 ・動物の体のつくりと働きに関する問題については、人体が持つさまざまな臓器について、資料を確認しながら復習を行ったり、インターネット等を利用して調べ学習を行ったりするなどして、改めて指導していく。